

氏 名 内山 忠

#### 主論文審査の要旨

近年、我が国の地方都市では中心市街地の空洞化が顕在化している。そのような状況下での中心市街地の賑わい創出には、骨格となる中心商店街の活性化はもとより、商店街と周辺を含めた中心商業地域を楽しく回遊でき、滞在する事を楽しめる市街地整備が望まれる。本研究は、熊本市を事例として中心商業地域の空間構造と来訪者の回遊行動との関係进行分析し、地方都市の中心商業地域の賑わい創出にむけた市街地整備を進める際の、空間形成指針を得るための手法を求めようとするものである。

本論文は 5 章から成る。第 1 章では、これまでの中心市街地活性化や回遊行動研究の課題を概観し、研究の目的、意義、方法について述べている。第 2 章では、現地調査の方法を提案している。具体的には、①通りの小区間を単位として通りの特性を比較評価する手法として、建物別階層別床利用区分別に床用途を調査し、通り上に 10m 間隔で設けた観測点毎の 30m バッファ集計を小区間別の特性とする手法、②吸引力のある核店舗や中心商業地域の主要な出口位置、利用交通手段によって回遊・消費行動に違いがあると仮定し、出口における利用交通手段別に来訪時から退出までの一連の回遊・消費行動を把握するための調査手法、を提案している。第 3 章では、調査結果の統計分析による通り空間の小区間の特性と、その連なりによる中心商業地域の通り空間形成を明らかにしている。その結果、熊本市の中心商業地域には 2 核 1 モールの空間構造が形成されており、モールの延長線上や裏通りには、個性の異なる店舗集積が複数立地、面的な回遊路を形成していることを示している。第 4 章では、中心商業地域の主要出口調査による回遊・消費行動の 6 指標を用いて多変量解析をおこない、①回遊・消費行動は 5 つのタイプがある、②その回遊範囲の広がりには広域型 3 タイプ、限定型 2 タイプである、③核店舗や出口の位置関係など空間構成が回遊を促進する、こと等を明らかにしている。第 5 章は、本論文を総括し、熊本市を事例とした中心商業地域の空間形成の評価手法の提案と、回遊範囲やタイプの特徴と市街地空間形成との関係について整理した。さらに、提案した手法やその結果が、熊本市はもとより他地方都市における中心市街地活性化にむけた市街地整備への応用など、今後の展開について述べている。

審査委員	環境共生工学専攻	人間環境計画学講座	教授	位寄	和久
審査委員	環境共生工学専攻	人間環境計画学講座	教授	両角	光男
審査委員	環境共生工学専攻	人間環境計画学講座	教授	矢野	隆
審査委員	環境共生工学専攻	社会環境マネジメント講座	教授	溝上	章志